

KiRaRi

小樽歯科衛生士専門学校同窓会

〒047-0032 小樽市稲穂2丁目1番14号
TEL:0134-27-3001 FAX:0134-27-3018
E-mail:otaru-dh@saturn.plala.or.jp

第21号(2026夏)



目次

小樽歯科衛生士専門学校同窓会	会長挨拶	竹内 真由美	1
小樽歯科衛生士専門学校	学校長挨拶	大聖 康洋	2
2026年度	定時総会		3
2025年度	事業報告・役員・委員紹介		3
2025年度	監査報告		4
2026年度	事業計画・役員・委員紹介		5
お知らせ・新幹事紹介・編集後記			6

会長挨拶

皆さまにおかれましては、日頃より同窓会の活動に対しましてご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

本年も4月4日に同窓会総会・親睦会に際しまして、皆様にご出席いただき大変うれしく思います。昨年よりこの総会の場や「だより」でお伝えしておりましたとおり、約六十年続いた私たちの母校は2027年3月31日をもって小樽歯科医師会立ではなく、他の学校法人様が事業継承する旨、学校長よりご報告がありました。そのため私たちの母校も今年度限りで無くなるわけですが、本日まで私たちを温かく見守り、ご指導くださった校長先生をはじめとする諸先生方、そして学校関係者の皆様、更に同窓会の運営をいつも支えてくださった役員の皆様に、同窓会長として心より感謝申し上げます。

さて、小樽歯科衛生士専門学校の運営が変わることの発表から今日まで、私たち同窓会役員は今後の活動について話し合い、母校が無くなるということで学校施設を使用できず同窓会の会議の場や事務的な作業が難しくなるということ、また、若い年代の役員の担い手がいないためこのまま現行役員で活動が続けることが年齢的にも難しくなるため、このタイミングで同窓会として来年の3月31日で解散するという事を今回の総会の場で議題として上げさせていただき、御承認いただきましたことをここにご報告させていただきます。

現在、歯科衛生士として現場で活躍している方、また別の道で社会を支えている方、それぞれの場所で私たちが輝き続けることこそが、この学校が存在した「生きた証」に他なりません。私たちが今日まで歩んできた道のり、そしてこれから切り拓く未来の中に、母校は永遠に生き続けます。

結びになりますが、同窓会組織としての活動は一つの区切りを迎えます。しかし、ここで結ばれた縁が途絶えるわけではありません。同じ学び舎を巣立った仲間としての絆をこれからも大切にしていければ幸いです。

皆様の益々のご健勝とご多幸、そして母校の輝かしい歴史が皆様の誇りであり続けることを祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。



小樽歯科衛生士専門学校
同窓会会長

竹内 真由美

(20期生)



小樽歯科衛生士専門学校
学校長

大 聖 康 洋

陽春の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

小樽歯科衛生士専門学校同窓会の皆様には、平素より本校運営に対し、特段のご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

3月の役員会の席上でも申し上げましたが、諸般の事情により本日の総会に出席できなくなりました。誠に申し訳なく思っております。

総会でお話しようと思っておりました本校の近況等を書面にてご報告させていただき、学校長としてのご挨拶に代えさせていただきます。

まずは、3月31日をもって2期目の前半を完了し、4月1日より新たに2期目後半をスタートいたしました。スタッフは大きな変化なく運営していくことになりました。新年度からどうぞよろしくお願い致します。

さて、3月1日に行われました、第35回歯科衛生士国家試験におきまして、本校57期生13名及び既卒生2名の合計15名が受験致しました。3月26日に合格発表があり、新卒13名は全員合格、既卒1名が合格、残り1名が残念ながら不合格となりました。基幹教員及び国試対策委員全員で最後まで全員合格を目指し頑張っていました。残念ながら1名の不合格者を出してしまいました。不合格者に対しては、今後もフォローし、来年の国試を再度受験していただくようアプローチしていく予定です。今回の国試は、合格率が全国で94.5%と昨年より3.5%アップいたしました。昨年に比べ、ひねった問題が少ないように思いました。また、57期生1名が卒業認定を得ることができず留年となりました。保護者を含め面談を行い、もう1年頑張る決意をしてくれましたので、しっかり再教育していく所存です。今後も学生教育はより一層難しくなっていくと思われませんが、職員一同一丸となって対応していきたいと思っております。

本日13時より小樽グランドパークホテルにて、第60期生の入学式を挙行いたしました。社会人入学1名を加え、7名が学生生活のスタートを切ったわけですが、現状3年生17名、2年生10名と合わせて、学生総数が34名と、昨年よりさらに減少し3年制移行後過去最少人数となりました。

本校の今後の状況につきましては、昨年も一部ご報告させていただきましたが、運営母体である本会からの赤字補填財源の枯渇により本校運営が極めて厳しい状況となっていることから、令和7年7月の歯科医師会臨時総会にて、令和8年度入学生を最後に学生募集を停止すること、及び令和9年度より他の学校法人へ歯科衛生士養成事業を継承することの2点が議決決定されました。このような状況となり、正に痛恨の極みであります。同窓会の皆様方にも大変申し訳なく思っております。

ただ、現段階で事業継承先の学校法人のお名前前は伏せさせていただきます。現在、先方は歯科衛生士養成校としての認可を申請中であり、正式認可が下りるまで道庁より公にしないよう指導を受けているためです。現在、「基本合意書」の締結は完了しており、順調にいけば5月末には「最終契約書」の取り交わしが行われ、あとは道庁の審査によりますが、夏場以降に正式認可という流れのなるのではないかと思います。先方のお話では、学校名も変えずにそのまま使わせていただきたい、とのこと。何より小樽市に歯科衛生士養成校を存続できるということは、地域医療の維持という観点からも大いに意義深いと考えております。

いずれにせよ歯科医師会立での本校の運営はカウントダウンに入っており、あとはスムーズな事業継承ができるか否かということまで来ております。決定いたしましたら、同窓会会員の皆様にも何らかの方法でご報告させていただく所存です。

このような状況ですが、本校の運営に最後まで全力で取り組んでまいります。今年度も、同窓会の皆様には、ご指導並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます、年度初めのご挨拶とさせていただきます。



2026年度 定時総会

開催日：2026年4月4日(土)

開催場所：好（ハオ）

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長・副議長選出
5. 議事録署名人選出

司会 佐々木敦子
副会長 佐々木敦子
会長 竹内真由美
小樽歯科衛生士専門学校 学校長 大聖 康洋
代読 見延 和美
議長 大森 悦子（12期生）
副議長 西坂 洋子（25期生）
河野 友美（25期生）
船橋みどり（25期生）

6. 報告事項

- 1) 2025年度事業報告 資料1－1・2 承認
- 2) 2025年度収支決算報告 資料2 承認
- 監査報告 資料3 承認
- 3) 新幹事紹介 57期生 三上 真央／57期生 小川 真花 承認
- 4) その他 学校運営交代により歯科医師会主催のお別れ会などがあれば会員に報告する

7. 議決事項

- 1) 第1号議案 2026年度役員改選 資料1－2 議決
- 2) 第2号議案 2026年度事業計画案審議 資料4 議決
- 3) 第3号議案 2026年度予算案審議 資料5 議決
- 4) その他 学校運営交代により同窓会解散と定期預金を解約し運営費の一部を会員に返還しクオカードを発送残金は赤十字などに寄付し残金を使い切る 議決

8. その他

9. 閉会の辞

副会長 佐々木敦子

2025年度 事業報告

自 2025年4月1日 至 2026年3月31日（会員数：1,735名）

{1} 事業

実施月日	事業内容	場 所
4月5日(土)	定時総会 会員41名	ノルドホテル：シズル
4月5日(土)	親睦会 会員41名	ノルドホテル：シズル
3月31日(月)～ 4月24日(木)	小樽歯科衛生士専門学校のリーフレットの 編集・学校への寄贈	
7月18日(金)	会誌『KiRaRi』発行	

・関係団体及び関係諸機関との連携強化

(1) 小樽市歯科医師会との連携強化		
・小樽歯科衛生士専門学校存続に向けての協力		2月1日
・小樽市歯科医師会新年会		
(2) 関係官庁との連携強化		
・小樽歯科衛生士専門学校入学式	祝電	4月5日
・同上	戴帽式 祝電	4月5日
・同上	潮まつりに参加 差し入れ	7月26日
・同上	国家試験対策 差し入れ	2月下旬
・同上	卒業式 出席	3月7日

{2} 諸会議及び委員会

役員会	2回	11月29日、3月28日
役員会・幹事会	1回	1月24日
3役会議	0回	
監査	1回	3月31日
だより編集委員会	1回	PCによる会議
リーフレット委員会	0回	"
ホームページ委員会	0回	"

{3} 執行機関 会長 副会長 幹事長 庶務 会計 書記

{4} 監事

役員、各委員

役職名	現行役員名	
会長	竹内 真由美	(20期生)
副会長	佐々木 敦子	(12期生)
	川口 一 紗	(48期生)
幹事長	尾谷 吉 枝	(13期生)
書記	春藤 和 子	(14期生)
会計	八木 明 美	(16期生)
庶務	橋本 幸 子	(7期生)
	薬師寺 弘 子	(8期生)
	武本 真 弓	(20期生)
	見延 和 美	(20期生)
	三原 めぐみ	(50期生)
監事	栗林 文 子	(5期生)

各委員会及び役職名	現行委員名	
だより編集委員会		
編集委員長	栗 林 文 子	(5 期生)
編 集 委 員	竹 内 真由美	(2 0 期生)
	八 木 明 美	(1 6 期生)
ホームページ委員	見 延 和 美	(2 0 期生)
	川 口 一 紗	(4 8 期生)
リーフレット委員会		
委 員 長	竹 内 真由美	(2 0 期生)
委 員	橋 本 幸 子	(7 期生)



監 査 報 告

2026年3月31日

小樽歯科衛生士専門学校同窓会
会 長 竹内真由美 様

小樽歯科衛生士専門学校同窓会

監 事 栗 林 文 子 

1. 監 査 の 範 囲 自 2025年4月 1 日
 至 2026年3月31日
 1. 会計管理に関すること
 2. 業務運営に関すること

2. 監査実施年月日 2026年3月31日

3. 監 査 の 概 要

2025年4月1日から、2026年3月31日までの、会計管理及び業務運営について監査を行いましたので、ご報告いたします。

会計管理につきましては、関係役員の出席を得、関係書類の照合確認を行い正確性を検討いたしました。
業務運営については、定例理事会に出席し、業務執行の妥当性を検討いたしました。

4. 会計処理は公正妥当、業務についても適正に運営されていたことを認めます。



2026年度 事業計画 役員・各委員

事業計画

自 2026年4月1日 至 2027年3月31日

{1}事業

実施月日	事業内容	場 所
4月4日(土)	定時総会 会員38名	中華レストラン：好
4月4日(土)	親睦会 会員38名	中華レストラン：好
8月下旬	会誌『KiRaRi』発行	

・関係団体及び関係諸機関との連携強化

(1) 小樽市歯科医師会との連携強化		
・小樽歯科衛生士専門学校存続に向けての協力 ・小樽市歯科医師会新年会		
(2) 関係官庁との連携強化		
・小樽歯科衛生士専門学校	入学式 祝電	4月4日
・同上	戴帽式 祝電	4月4日
・同上	潮まつり 差し入れ	7月25日
・同上	国家試験対策 差し入れ	2月下旬
・同上	卒業式 祝電	3月7日

{2}諸会議及び委員会

役員会	必要に応じて
役員会・幹事会	〃
3役会議	〃
監査	〃
だより編集委員会	〃
ホームページ委員会	〃
リーフレット委員会	〃

{3}執行機関
会長 副会長 幹事長
庶務 会計 書記
{4}監事

役員、各委員

役職名	現行役員名
会長	竹内 真由美
副会長	佐々木 敦子
	川口 一紗
幹事長	尾谷 吉枝
書記	春藤 和子
会計	八木 明美
庶務	橋本 幸子
	薬師寺 弘子
	武本 真弓
	三原 めぐみ
	見延 和美
監事	栗林 文子

各委員会及び役職名	現行委員名
だより編集委員会	
編集委員長	栗林 文子
編集委員	竹内 真由美
	八木 明美
ホームページ委員	見延 和美
	川口 一紗
リーフレット委員会	
委員長	竹内 真由美
委員	橋本 幸子

歯科衛生士復職支援事業

(歯科衛生士リカバリー事業)開催のご案内

今年も、歯科衛生士復職支援事業(歯科衛生士リカバリー事業)として、下記の内容で研修会を開催する予定ですので、ご案内申し上げます。

記

- ・場所：小樽歯科衛生士専門学校
- ・内容：講義、実習
新しい材料の取り扱いについて(90分)
スケーリング、PMTC実習(120分)
11月開催(予定)

詳しい日程、参加申し込みにつきましては、
小樽市歯科医師会事務局 (Tel 0134-27-3000)
まで、お問い合わせください。

新幹事紹介



三上 真央

4月になり、社会人としての生活がスタートしました。

覚えることがたくさんあり、自分の力不足を感じることもあります。先輩方に教えていただきながら少しずつできることが増えてきました。

毎日新しい発見があり、やりがいを感じていて、とても楽しく働いています。

実習で学んだことが多いため実際に就職してから、実習に行っていたよかったですと思うことが多いです。

失敗を恐れず何事にも積極的に取り組み、一日でも早く頼りにしていただける歯科衛生士になれるように努力していきたいと思っています！



小川 真花

57期生の小川真花です。専門学校を無事に卒業し、現在の職場に就職してから早いもので数ヶ月が経ちました。

実際に現場に出てみると、学生時代に学んだ学校の厳しさとは比べ物にならないほど、プロとして働くことの本当の厳しさを日々実感しています。

医療人としての強い責任を持つということの重みや、一人ひとりの患者さんに寄り添ったコミュニケーションの難しさなど、毎日が新しい学びの連続で大変なことも多いです。

ですが、落ち込んでいる暇がないほど充実した毎日でもあります。いつもの確にサポートしてくださる先輩方のように、私も早く一人前になって信頼される存在になれるよう、これからも一つひとつの業務に全力で励んでまいります。

編集後記

昭和61年に手に職を付けたいと思いOLから小樽歯科衛生士専門学校に入学してからもう38年。今回は栗林さんの代わりに編集後記を書かせていただきます。結婚、出産、再度歯科の現場に戻り、またまた勉強して介護支援専門員、社会福祉士を取得してきました。これらの勉強の基礎に歯科衛生士の知識と人に寄り添う気持ちがありました。今も患者さんのお口の中を拝見し治療に繋げてしっかり栄養が取れるようにまた、発話してコミュニケーションをとれるようにと考えています。最近は孫の乳歯の萌出にわくわくしています。同窓生の皆様も卒業してから人生のステージでいろいろな思い出もできたことと思います。長く拝読していただいた同窓会誌KIRARIも21号で最終号となります。私たちの歴史の記憶の中でお世話になり支えてくれた先生方、諸先輩、家族とKIRARIの編集にかかわった役員の皆様にあらためて感謝の気持ちを伝え、皆さんの未来が充実し幸せに満ちた日々になるよう心から祈ることで締めくくりたいと思います。ありがとうございました。

代 理 見延 和美(20期生)

編集委員 委員長 栗林 文子(5期生) 八木 明美(16期生) 竹内 真由美(20期生)